

ベルなので、何したいの？「何」とか、どうしたいの？「どうしたい」みたいな感じで、オウム返しが多くて。呼んでも返事はしないし。

Int：言葉のやり取りができないことがちょっともどかしいんですね、そうすると。

Q：そうですね。何もかも遅いから本当にしゃべるのも遅いだけなのかなとか思ったり。でも他のところは、他の子と大差なくできているような気もするし。

Int：言葉だけの遅れなんですかね。

Q：言葉だけなのかな。ご飯とかもいまいちちゃんと食べられてないけど、全部言葉からなのかなっていう感じ。まだ分かんないです。

Int：育児日記を毎日つけていらっしゃるということなので、それを追っていくと、何歳のときにこういうことをしてたとか、多分自分で覚えてるつもりでも、明確には覚えていないこともあると思います。ですから、ちゃんとしかるべきところにご相談に行くときには、それを証拠というか持って行って、1歳のお誕生日のときにはこういう状態だった、何か月のときにはこうだったっていうところをお話なさると、すごく整理されて、きちっとした情報がいくと思いますので。

Q：ありがとうございます。

Int：今、漠然とこうなんですって言っても、それまでの長い経過があるわけなので、その経過をお話になるといいと思います。今ご心配なのは、上のお子さんのそういったことでしょうかね。

Q：どちらかと言うとね。震災超えて生まれてきて、なんか心配とかないのかなって思ってたわりに、下の子は何も手が掛からず育ってくれたので。

Int：そうでしたか。今伺うと、アンケートをお答えになったときよりは、ずいぶん体調がいい感じですかね。

Q：多分そうだと思います。

Int：分かりました。こういう嫌なことがあると誰でも気分落ち込みますけれども、そんなときに対処する方法っていうのは、ご自分で身に付けていらっしゃるみたいだし、ご主人やいろんな方にご相談できるみたいなのでね。

Q：逆に彼女の方が心配になりましたね。

Int：それ以降、全く関わりないですか。

Q：全然ですね。大丈夫かなみたいな。その彼女は、なんでも人のせいみたいな感じで生きてる感じ、私から見るとですけどね。だから、いつも産後うつみたいになったりとか、子どもと一緒に家にいるだけの私のところに、誰も遊びに来てくれないとかって言ったりとかって感じだったので、今回も仮設に入って、子どもがとっかえひっかえ風邪を引き続けて治らないとか、あと娘ちゃんが仮設で子どもたちにいじめられてるとかっていう話とか。上に女の子がいるらしいんですけど、その子が同じ仮設の男の子に死ねとか言われたりして、その子だけをいじめるみたい。そういうイライラを相談する場所って、逆に彼女はあるのかな、忙しすぎて日々のことだけ頑張らなきゃなくて、大丈夫なのかなって。それなりのところでちゃんと消化してくれれば、こっちに来なかったのになってちょっと思ったりします。そのときに妊婦とかじゃなくても、子どもがいる人はみんな、それなりに悩みがあったりとか。

Int：今ちょっと彼女のことが古いお付き合いであるし、ご友人でいらっしゃるから…。

Q：頭にはきたけど、心配ではあるから。

Int：お優しいですね。そうでしたか、分かりました。今日は、本当に貴重なお話をしていただき、あ

りがとうございました。

Q：ありがとうございました。

Rさん：20歳代後半 初産婦

分娩日 2011年8月下旬 分娩時週数 38週

Int：すでにアンケートでいただいていますけれども、お子さん生まれたのはいつでしたか？

R：平成13年8月です。

Int：震災のときは、妊娠何カ月ぐらいだったんですか？

R：4カ月ですね。

Int：4カ月だと割と安定してる時期でしたか？それでもなかったですか。

R：震災の1週間後に切迫になって、お腹がずっと張り続けて。

Int：そうですか。じゃあ大変だったんですね。震災のときどちらにいました？

R：Sセンターにいて、その職員なんです。

Int：職員なのね、そうですか。そのセンターは、津波は大丈夫だったんですか。

R：大丈夫でした。

Int：割と内陸で標高高いんですか？

R：裏に川があるんですけども、津波を一時心配したんですが、大丈夫で。

Int：地震は？

R：地震のときは、事務所の中にいました。

Int：建物は、大丈夫だったんですね。

R：でも地盤沈下がすごくて、周りもでこぼこになっちゃって。

Int：今はもうだいぶ直したんですか？

R：直しました。

Int：そうですか。そのときは、まだ産休に入ってないですよ。

R：まだですね。産休に入ったのは7月だったので、本当に生まれる2カ月前ぐらいだったので。

Int：震災のとき、お勤めしながら、Sセンターにいたんですね。その後、どうになりましたか？

R：その後は、センターに避難してくる方もいたので、その方たちもやっぱり川があるから危ないって  
いうことで、みんなで一緒にもっと山の方の学校の体育館に逃げたんです。

Int：なんていう学校ですか？

R：N中学校の体育館に。

Int：そこも避難所になったんですか？

R：そうなんです。

Int：歩いて行けるといいますか？

R：歩いても行けますが、20分ぐらいかかるのかな？で、隣は老人ホームがあるし、みんなで自分の  
車に、おじいちゃんおばあちゃんを乗せたりしながら、避難者も連れて。

Int：そうか、津波がすぐに来るような場所ではないから、車で移動できたわけですね。そのときお腹  
の方は大丈夫でしたか？多分、慌てたと思いますが。

R：ほとんど記憶ないです。

Int：記憶ないですか。そのときは、誰かの介護とかしてたんですか？介護っていうか、おじいちゃん  
おばあちゃんの世話とか、あるいは周りの人たちの世話とか。

R：座布団を持って行ったり、毛布を持って行ったりして、取りあえず何回か体育館と移動して。

Int：職員としての働きをされてたんですね。それは大変でしたね。その後、その夜はどうなったんですか。

R：その夜は、N 中学校の体育館にいました。

Int：ご自宅は職場から近いんですか？

R：自宅は、このときはまだ田中前にお家があったので、本当に近いです。でも、道路 1 本前まで津波の波は来たんですが、ただ家はギリギリセーフだったんです。

Int：お家は、全部大丈夫だったのね。いわゆる全壊、半壊っていうのは全然なくて。

R：半壊です。地震で柱が斜めになったりとか。

Int：そういうのがいっぱいあったんですか。そちらには、戻ったんですか？

R：戻りました。おばあちゃんがいたので。

Int：どちらの？ご主人の？

R：旦那の祖母がいたので。

Int：ご主人のおばあちゃん。ということは、かなり高齢ですね。

R：70 代半ばなんですけども、お家に 1 人でいると思って 1 回戻ったんですよ。

Int：11 日に？

R：地震があつてすぐ。上司から妊婦だしここにいたら仕事で大変なことになるから、1 回家に帰れって言われたんですけど、おばあちゃんを取りあえず高台に逃げさせて、私はまた戻って来たんです、車で。

Int：仕事のために？

R：逃げるって言っても、居場所もなかったの。

Int：おばあちゃんはどこに預けたんですか？

R：おばあちゃんは、自分の兄弟がいるところがもっと高台にあったの。

Int：避難所ではなくて、親戚の方がどこかにいたんですね。家族構成は、どうなってるんですか。

R：今は、旦那と子どもと 3 人ですけども、当時は私と旦那と、旦那のお父さん、お母さんとおばあちゃんの 5 人で。

Int：5 人でね。地震のときお家にいたのは、おばあちゃん 1 人で、ご主人のお父さんとお母さんは、お勤めかなにか？

R：それぞれ仕事に行っていました。

Int：そうですか。地震があつて、避難所には何日ぐらい居たんですか？数日はそこで寝泊まりしたんですか？

R：1 日目の夜は中学校の体育館にいて、その後はセンターに戻って来たんですね。で、センターで避難してくる方とかいろいろ…。

Int：そこにも避難してくる方がいたんですか？

R：いたんです。なので、そこにずっと待機ということで。何日間居たかちょっと覚えてないんですけど、寒かったの、夜は外のバスの中で寝泊まりをして。電気もガスも水道もなかったの、取りあえず建物内にいれる時間まではいて、あと誰も来ないかなと思ったら、夜はバスに行つて。バスっていうのは、市役所の公用車なんですけど。ガソリンが入ってたので、何人乗りだろう、50 人ぐらいは、30 人かな、乗れるような大きいバスの中で暖を取りながら。

Int：そこには避難者の方が寝泊まりしてるわけでは…。

R：すぐ来なかったんです。何日かして病院の方から運ばれてきた方はいたんですけど、1週間か10日ぐらいは誰も避難者というかはいなくて、職員だけが昼間いろいろと…。

Int：待機してたり、どこか手伝ったりしてたんですか。

R：待機してたり、医療機関はどこがやってるかっていうのを、課長さんと一緒に車を運転してずっと見て回ったりとか。

Int：そうこうしてるうちに、1週間後に切迫流産になったんですか。

R：そうなんです、1週間後に出血があって、だんだん具合悪くなってきたので、そのまま病院まで歩いて行きました。

Int：病院ってどこですか。

R：I病院です。

Int：その後どうなったんですか。入院するとか、そういうことはなかったんですか？

R：入院はしなかったです。張り止めの薬だけもらって、様子見てたんですけど、やっぱり4月に入ってから、ものすごくお腹の張りとかがまたひどくなってきたので、自宅安静っていうことで、仕事は休んで、お家に1カ月居ました。

Int：病院には通ってたんですか。

R：行かないです。薬を取りあえず1カ月分ぐらい大量にもらって。I病院がかかりつけじゃなかったんですよ。かかりつけの産婦人科が被災してしまっ行って行けなかったんで、とりあえず行ったんですよ。でも、私が最初に掛かっていた病院は、お産ができないところだったんです。妊婦健診だけ7カ月までは診ますよっていうところで。

Int：じゃあ、もともとは、I病院で出産予定だった？

R：予定はそうだったんです。ただ、まだ初診もしたことがなくて…。

Int：薬とかはすぐ出してもらえたのかしら？

R：薬は、はい、診察してもらって。

Int：そのときに産科の先生はいたんですか？

R：いました。今いるからすぐ診てあげるっていうことで診ていただいて。あとで、被災した病院に行って、カルテとか血液検査の結果とか、書類的なものはもらって来て、その後から、I病院に掛かるようになりましたけど…。

Int：産まれたとき何グラムありましたか？

R：3,000ぴったりです。

Int：自然分娩ですか？

R：ずっと逆子だったから、帝王切開で。

Int：そうですか、普通に元気に産まれたんですね。

R：はい、大丈夫でした。

Int：その後のお子さんの成長も大体順調ですか？

R：はい、順調です。

Int：Rさんは、市の職員ということで、職種は何ですか？

R：管理栄養士です。

Int：震災のときの情報の入り方っていうのは、何で入ってきましたか？

R：やっぱり職場ですね。職場にいるから、情報としてはすぐ。

Int：それらはどうやって入ってきましたか？電話とか何かありましたか？

R：電話はしばらくつながらなかった。自分の携帯もつながらなかったの。

Int：そうですね。そうすると、いわゆる口コミですかね。誰かが来たときに情報を知らせてくれるとか、こちらが行って見て来るとか。

R：そうですね。職員が、使える車で巡回して回ってたりしたので。

Int：やっぱり見てくるんですよね。見てきて情報を、あるいは誰かが来てっていうのはありましたか？

R：ありました。

Int：どんな人が来るんですか。

R：役所の職員です。市役所も来ましたし、県の保健所がすぐ近くにあるので。

Int：そうすると、どういう情報を教えてくれるんですか。配給や支給のもの、例えばおむつがどこにあるとか、そういう話ですか？

R：配給もあんまり覚えていないけど、どうやって来たのかな。取りあえず、おにぎりだったらおにぎりとかを何個必要かっていうのを言えば、今日届いた分はこの分だからっていうことで。

Int：それは、誰が配ってくれるんですか。

R：職員ですね。最初は職員が持ってきてました。

Int：そうですか。ここへ行けば、例えばどこどこ小学校におむつがあるとか、ミルクがあるとかっていう情報はあったんですか？

R：それは本当に職員がセンターにたまたま来たときに聞いたりとか。

Int：そういう情報はそんなに簡単に回って来てるわけではないんですね？

R：そうです。あと電話がつながれば、電話とかでも聞きましたけど。

Int：電話はやっぱり1週間後ぐらい？

R：そうですね、それぐらいはかかったかもしれないですね。3日、4日、もつとかな。

Int：センターは、特に一般より早く開通するとかって。

R：それはあったと思います。あとは自分の携帯が何日か経ってつながるようになったので、情報は自分で得てました。職員として動いていたので、物資はここに集まるとか、そういうのは分かってました。

Int：震災後の1週間は一生懸命動いてたんですね。切迫流産になる前は、自分で車運転してどこかの場所を見てきたりとか。

R：医療機関どこが被災してるかとか、被災してないかとか。

Int：そうですね。今まで聞いた方の中では、育児のことで情報を得るには、ママ友が非常に重要だと言ってましたけど、Rさんの場合、そういうような情報源ってどちらになりますか？

R：いわゆる出産・育児雑誌を見たりとか、あとはお友だちからいろいろ聞いたりとか。

Int：例えば地域でここにいい病院があるとか、なんとか相談日が月1回ここでやってますよとかってというのは。

R：そういうのは全部、保健センターで分かってますから。

Int：職員だから分かってますよね。あとツイッターみたいな、ああいうのもいいことがあるとかっていう話がありましたけど。

R：やってなかったです。私は、第1子だったので、育児で分からないこととか何かあったときは、職

場にいる看護師とか保健師とかにすぐに聞けるので、そこから聞いたりしてました。

Int：子育てに関する窓口を聞いたかと思いますが、月に1回か2回。

R：子育て相談とかやっています。広報とかで、お知らせしてるので、見てればわかってると思います。

Int：あとこの辺りでは、育児グループとか作ったりはしてないですか？自助グループって言ったら変だけど、サポートグループ、あるいは自分自身の当事者グループみたいなものとか。

R：私はそんなに把握してないですね。保健センターの場所を使ってやってるっていうのはないし、何か独自にそういうのをやってる方もいるかもしれないですけど、私はちょっと分らないです。

Int：そうですか。あと、行政に勤められてるんですけど、その行政に対する、ああしてほしいとか、あれはやめてほしいとか、震災前から産科がかなり過疎になってるところに今回の震災で、せめてこうしてほしいとかって何かありますか？

R：やっぱりお産できるところを、もうちょっと増やしてほしいですね。

Int：先ほどおっしゃったように、基本的には健診だけして産めるのはもうI病院だけ…。

R：もともと気仙沼には、産科が3カ所しかなかったんです。そのうち、お産ができるところは2カ所だけだったんです。

Int：そのお産ができないところに、まずはかかっていたわけですね。

R：はい。土曜日も診てくれるところだったので、私平日仕事だから便利だなと思って、そこに行ってきたんですけど。そのお産できる病院のうちの1つが、津波で駄目になってしまったので、私が出産するときはI病院だけしかなかったんです。

Int：もう選びようないわけですね。そうすると混んでましたか？

R：混んでました。授乳室もすごいギチギチだった。お部屋もないって言われて。

Int：そうするともう何カ所かないと辛いついていう感じですかね。外来も健診に来る人で混んでるんですか？

R：23年の8月生まれがいっぱいいたみたいで、ちょうど混んでたところに当たったようなんですけど。気仙沼市で生まれる子どもの数からいったらどうなのでしょう、よく分らないですけど。

Int：そうか全体数が分らないですね。

R：年間多分400人も生まれてないと思うんですけど。月30人ぐらいでしょうか。

Int：そうですか、大体1日平均1人ぐらいですかね。そうするとI病院ともう1カ所ぐらいだけでいいのかな。

R：あんまりいっぱいありすぎても、多分そんなに流行らないですし。

Int：そうですね、競争になっちゃったりね。産科はそれでいいとして、今度は小児科とか育児相談とかになると何かありますか？

R：小児科は震災後戻って、3カ所やるようにはなりましたけど。

Int：震災前は？

R：震災前は、I病院入れて4カ所。で、1カ所、震災で先生もお亡くなりになってしまったので、今は、3カ所しかないですけど。

Int：子どもの人数多いけど、3カ所で間に合うのかしら。

R：毎回混んでます。今朝も行ってきたんですけど。

Int：お子さん、調子悪いんですか。

R：風邪引いてるんです。

Int：そういうとき、お子さんはどこに預けるんですか？

R：普段は保育所に行ってますけど、今日はおばあちゃんがちょうど休みだったので。

Int：ご主人の？

R：いえ、普段は私の母に。

Int：ご自身の実家は、どこにあるんですか？

R：気仙沼の南郷っていうところです。実家も被災して、大規模半壊でまだ直してないので、今仮設に  
いるんですけど。

Int：その仮設の場所は近いんですか。

R：はい。職場のすぐ近くなんで。

Int：そこはおじいちゃんとおばあちゃんだけで住んでるんですか？

R：私の妹もいます。

Int：そうすると3人で暮らしてるんですか。

R：ただ父は、仕事が遠洋漁業で、ほとんどいない状態です。

Int：ちょっと立ち入ったこと聞きますけども、ご夫婦の関係が震災前と震災後で変わったっていうこ  
とは、ありますか？絆が深まったとかっていう話なんかありましたけど。

R：でも、お互いいろいろ考えるようになったとは思いますが。

Int：そうですか。考えてどうなりましたか？

R：震災のときに、旦那はちょうど川っぷちの老人施設に勤めてたので、そこで被災して2日ぐらい音  
信不通だったんですよね。私がお家に帰っても、みんな息子が帰って来ないっていうことで心配して、  
電話もつながらないし、探しに行くにも火事がすごいところだったんですよ。

Int：火事で大変でしたよね。どの辺なんですか？

R：鹿折で、大きい船が上がりついたところです。

Int：ありましたね。私のイメージでは、港のような気がしたけど、あそこは港ではないんですか。

R：あそこからもうちょっとバイパス寄りというか、本当に川、道路、施設っていう感じだったので、  
その施設にいて、そこで。

Int：もろに津波を受けたんですか。

R：受けました。

Int：その施設の人は、助かった人多いんですか。

R：亡くなった人も50人以上います。

Int：入所してる人ですか？スタッフは？

R：そうです。スタッフは1人か2人。その場で亡くなったかはちょっと分からないですけども、非番  
だったのかな。

Int：そうですか。ご主人は、どうやって助かったんですか？建物は高かったんですか？

R：最初、津波が3メートルだか6メートルって言ってたんで、2階に逃げれば大丈夫と思って、みん  
な2階に居たらしいんですけども、やっぱり2階の窓を突き破って津波が入って来て、旦那は背が高  
くて180cmぐらいあっても、もう首のどこまで全部重油まみれになるぐらい浸かったんで、お年寄  
りは立てない人がもう…。

Int：そうなんですか。

R：1回波が引いた後も、何回か2波3波って来たみたいで。周りは火事だし、みんなでその施設の中

から逃げられなかったので、ずぶ濡れのまま、そのまま夜を明かして、朝、自衛隊の方に助けられて  
って言ってました。

Int：一般の人がもう立ち入れるどころじゃなかったんですね。ご主人が無事だっていつ分かったんで  
すか？

R：私が職員としてたまたま避難所を回ってたときに、そこに施設の人が逃げてきてたっていう情報が  
あって、もしかしたらいるかなと思って。

Int：偶然分かったんですか。

R：そうなんです。行ってみたら生きてた。でも、その前はほぼ市役所だったので、遺体が何体上がっ  
たとか全部、逐一情報が入ってきましたから。

Int：生きた心地しなかったですね。

R：全然もう。遺体安置所に行くことしか考えていなかった。親ももう、死んだものだと思って。

Int：もう諦めてたんですか、半分。

R：川つぶちだから、生きてないだろうって。

Int：結果としては、その施設の中では、スタッフは結構生き残ってた方が多いんですか？

R：そうですね。ただ、その身近に私と同じぐらいの妊婦の方もいたみたいなんですけど、津波の影響  
で体が冷え切ってしまって、やっぱり駄目になってしまったっていうのを話で聞いてて、やっぱり且  
那はそのこともあるから、すごい心配してた。

Int：そうですね。ご主人は、体調大丈夫だったんですか？かなりひどい目にあっただけですけれ  
ども、ケガしたとかそういうことなかったですか？

R：そういうことはなかった。

Int：今、ご主人は仕事どうしてるんですか。

R：今はまだ同じところにいるんですけど、施設自体はまだ再開していないので。

Int：経営自体はちゃんと成り立っているんですか。そこ1カ所だけやってるんですか。

R：いろいろ訪問看護ステーションとかもあります。その施設を、別のところに今ちょうど建築中なん  
で、そこができれば、またそこに戻れるような。だから、働いてはいますけども、そんなに忙しくも  
なく、お客様もあまりいないしという感じですね。

Int：それから育児に関しては、ご主人はいろいろと手伝ってくれますか？

R：そうですね、いろいろとやってくれますね。

Int：例えばどんなことをやってくれるんですか？

R：お風呂に入れる、食べさせる、全部。1人で面倒見れます。

Int：1日預けても大丈夫だ。

R：大丈夫ですね。そうやらざるを得ない状況があったので、自然とできるようになったと。

Int：今、お子さんが1歳1カ月ぐらいだと、お子さんの遊ぶ場所とかありますか？

R：ほとんど保育所ですからね。休みの日は外で遊ぶっていうことはあんまりないので、仮設住宅のア  
スファルトで平らな駐車場で遊ばせたりとか。

Int：ちょっとむなしい感じもしますけど、でもしょうがないですね。むしろ安全ですかね、そっちの  
方が。あと育児で協力してくれるのは、今回みたいに預かってくれるおばあちゃんとかですか？

R：はい。私の母も旦那のお母さんも、休みのときは。

Int：預かってくれるわけですね。仕事に復帰したのは、いつですか？

R：5月です。4月に1カ月休んで、5月には出てきてあと2カ月働いて、また産休入りしましたけど。

Int：去年5月に1回戻ったんですね。

R：戻りました。1カ月だけ休んで戻ってきて、2カ月ちょっと働いてそれから産休に入ったんです。それで、また今年の4月から育休あけで。

Int：お子さんも順調だから大丈夫ですかね。先ほど言ったようなこうしてほしいっていう希望とか要望とか何かありますか？

R：正直、私もこういうふうにしたのって初めてなんですよ。だから、なんか聞くこと、そういう職場にいるから、お母さんたちから聞かれることはあっても、自分のことって話すことがなかったの

で。

Int：何か子育てに関することとか、あるいは研究自体に何かこうしてほしいとか、質問とか意見とかがありましたら伺っておきたいと思いますが、いかがですか？今3人暮らしなんですよ。

R：そうです。もともと地震のあった次の日の土曜日に引っ越しをする予定だったんです。

Int：今住んでるところに？

R：今住んでるところに行こうと思ったんですけど、まず震災があって物も買えなかったの、すぐに引っ越しできず、旦那の実家にいました。産まれる1カ月ぐらい前には今の住所のところにきました。

Int：そうですか。お子さん生まれるから、別に暮らそうっていう話になってたんですね。

R：はい。あと、震災のときって偏った食べ物とか、食事がとれなかったりとか、そういうのが心配でした。

Int：心配でしたよね、当然専門家としてもね。聞くとやっぱりミルクが入ってくるかって心配したら、ミルクは結構、物資であったんだそうですね。

R：あったけど、なかなか出ていかなかったりっていうのがあったり。

Int：きっと、あれがあんなとこにあったのかっていうのもありましたよね。お子さん達のあのときの栄養状態ってどうでしたか？特に生まれてすぐのお子さん、例えば2月に生まれた子とか。お母さんたちも育児してましたよね。

R：まずお家が無事な方は家の中で、石油ストーブでお湯沸かして。あと避難所に来た方は、本当にお風呂にも入れられなくて、お尻が荒れてきたりとかっていうのもあったようなので、保健師が避難所にベビーバスを持って行って、お湯沸かして子どもを順番に入れてあげるとか、そういうふうにしてたみたいですけど。食べ物はもうあるもので、どうにかつぶして与えたりとか。

Int：そうですね。そのまま食べさせるわけにいかないから、つぶしたりとかして工夫したっていうことですね。子ども用とかじゃなくて、あるものを。

R：みんなスーパーに何時間も並んで買ったり。最初は、冷たいおにぎりしか来なかったです。

Int：それをつぶしたりとか、おかゆ状にして食べさせていたんですね。

R：そうですね。哺乳瓶もなければ、コップで…。

Int：コップで。そういった工夫を聞いた中で、いいなっていうのと、これ止めた方がいいなっていうの何かありました？

R：洗えるところもなかったの、ちゃんと消毒もできないし、冬だったからまだよかったのかもしれないですけども、夏だったら多分ひどいことになっていたんじゃないかと思います。

Int：そうですね、みんなお腹こわしたり、食中毒がね。

R：あの時期だったから多分お風呂に入らなくても何日間も平気だったし。私が避難所にいた中では、ちっちゃい子どもを連れてるお母さんは、寒いし、おっぱいあげたくても場所もないしっていうような状況で。その場にあった毛布で隠してあげたりとか、それを掛けてあげて授乳してるような感じで、さらに泣けばその場に居づらいような…。

Int：外に出て行かなきゃいけない雰囲気なんですね。この辺りで福祉避難所のようなものはできましたか？

R：高齢者の方ではできましたけども、子どもの方ではできてないと思います。あとは、アレルギー食がなかなか入ってこなかった。

Int：それはテレビにも出てましたよね、アレルギー食なんとかしてくれっていうんで。

R：私もすっかりそのことが頭になかったので、たまたまお子さんがアレルギーをたくさん持つてるお母さんが保健センターにいらして、何かないですかって言われたときに、ああ、と思ったんですけど。

Int：それ何日目ごろだったんですか。

R：2週間か3週間経ってました。食べさせるものがないということで。結構、小麦から何から、7個ぐらいアレルギー持つてる子だったので、どうかしてください、他にも困ってる人がたくさんいるんですって言われて、ああ、そうか、と。

Int：それでどうしました？

R：そのときは栄養士会の方も協力に来てて、先に気仙沼に入って来てくれた方がいらっしゃったので、その方に協力を依頼して、いろいろ送っていただいたりとか。

Int：送ってもらったんですね。そういうときは、依頼したら、適切なものが適切に来てましたか？

R：やっぱりすぐは来なかったですね。あとはしばらく経ってから、アレルギーの会とかがあったりして、そこから物資が送られてきたりとか、あと何か困ってることがあったら言ってくださいって書いてくださった方もいたので、お電話して送っていただいたりとか。

Int：そうですね。アレルギー食は、ずいぶん問題になってましたね。

R：あの時は、すごく困りましたね。

Int：わかりました。最後は職業的な話になっちゃいましたけど、今日は本当にありがとうございました。

S さん：30 歳代後半 経産婦

分娩日：2011 年 5 月下旬 分娩時週数：34 週

Int1：アンケートにお答えいただいている、また改めて同じことを聞く形になってしまうかもしれませんが、生の声をお話していただければと思います。お話できる範囲で構いませんので、震災時の状況を教えていただければと思いますが、お伺いしてもよろしいですか？

S：はい。

Int1：震災時、搬送されて U 病院に来られたということだったんですけれども、気仙沼の病院に入院してらしたんですよね。そのときいかがでしたか？

S：思い出すと涙が出そうに…。震災のとき、結構入院生活が長かったんですね。つわりのときから入院してて、1 回帰ったんですけど、1 カ月ぐらいですぐ、切迫でまた入院したので。つわりの時点で、切迫で入院してる人たちの様子を見て、こういうふうに入院したら、もう生まれるまで入院するよーなんだなってずっと思ってたから、入院って言われた時に、1 人当時中学校 2 年生の子がいるんですけど、ちょうど誕生日だったんです。それで、誕生日をお祝いしてから、次の日に入院したんです。息子はもともと、じいちゃん、ばあちゃんとこにしょっちゅう泊まりに行っていて、実家とうちが近いので預ける面では不安はなかったんですけど、そのとき旦那のことでちょっとゴタゴタっていうのがあって、自分の精神状態があんまりよくなかったっていうか。でも、子どももいるし、とにかく気をしっかりもたないってところと、その点滴の薬が合わなくて、なんか違う薬に変えたら、血管痛っていうか、もうすごいひどくて、それが 1 週間ぐらいどうにもなんなくて、そんなのでゴチャゴチャして、やっと落ち着いたのが水曜日だったんです。ああ、やっと落ち着いた入院生活を送れるっていうか、まだまだ長いから。1 カ月前の予定日だった友達が先についていうか、もう U 病院に搬送されてたし、周りの切迫で入院してた人が臨月に入るからって退院してって、ずっと私大部屋に 1 人だったんです。出産の人がいっぱい来てぎゅうぎゅうなのに、そういう入院患者さんだけの部屋っていうのが 1 つ確保してあったんですけど、私 1 人で、なんかすみません、なんて冗談で言いながら、結局いっぱいになってきたから、じゃあ 3 人の部屋に移りましょうって言って 3 人の部屋に移っても、ずっと 1 人で…。震災の週の月曜日に、中国人の人が入院してきたんですけど、日本語があまり分からなくて、コミュニケーションもとれなくて、あっちも旦那さんしか頼る人がいなくて寂しい思いをしてたから、ちょっと力になってあげようみたいなところがあって、中国語から日本語に変換できるサイトに登録して、ちょっと会話をし始めた頃で、その点滴も落ち着いて、ちょうど韓流ドラマにはまって、その 1 時間を楽しみに見てて、トイレ我慢できなくて、最後の CM で急いでトイレに行ったときに地震がきた。トイレの中で地震がきて、ちょっと大きかったけどトイレは安全だったっていうのがあるから、落ち着いてはいたんだけど、取りあえず落ちてきそうなものを見て。

Int1：点滴されてたんですよね？

S：はい。揺れが 1 回落ち着いたなと思ったら、また始まって。これでは多分その中国人の人が、1 人で怖がってるだろうと思って、トイレを流さず、拭くのも多分忘れて、もう急いで走ってたんですよね。そうしたら、やっぱり動揺してたから抱き合って、大丈夫大丈夫って言いながら、ずっと地震を耐えて。なんかキンコンカンとか鳴ってたし、絶対津波が来るなって思って。

Int1：そのときに思ったんですか。

S：思いました、すぐ。絶対津波が来るって。そんな大きいのは考えてなかったし、どれぐらいのとか

思っけなかつたけど、すぐ津波がくると思っけ、そこまでくるのはよっぽどなんですけど、なんか気になつて、見えるかなみたいな感じで、ベランダから何回も見てたら、もう煙が上がつてるところがあつて、火事だなつてこう行つたり来たりしてゐるうちに、なんか安心してたから子どものこと忘れてたわけじゃないんですけど、あつて思っけ、ちょうど携帯を見たら息子からメールが入つて、大丈夫？つて、そうメールが来たつていうことは、ちょうど学校の時間だったから、大丈夫なんだと思っけメールをしたら、今実家のすぐ目の前に施設があるんですけど、そこにいたつてというのが最後だったんです、息子とは。

【インタビュー者交代】

Int2：こんにちは。最近は、どうですか？

S：お久しぶりです。精神的なところの負担は、ちょっと大きいところがありますね。

Int2：お仕事は変わらず、普通に。

S：してました。

Int2：少しずつ、お父さんお母さんがお仕事に出たりつていうことがあつて、お子さんを預けるところが、なかなかなくて、大変だつていうことをよくお聞きしたりしますが…。今、子育ての際に困つてるといふか、仮設だとわりと同じような世代の方がいらして、いろんな支援があつたり、子育ての出会いの場がいろいろ設定されてたりといふことは結構あるんだけど、そうではなくて、今までと同じような生活をされている方々には、なかなかそういうものがないから、あればいいなつていう話もお聞きしましたが、やっぱり、今でもそういう思いはありますか？

S：ですね。なんか話だけでも聞いてもらつて、すつきりできるところがあればいいんでしょうけど。常に、旦那が仕事でいないから、その点では、気にしないで、私の母親を面倒みるつていふか、精神的に支えてあげられるのはいいんですけど。でも、お母さんも、娘だから当たり前じゃないけど、お兄ちゃんも当てにならないから、結局、私と孫たち、息子と今回生まれた子が、今は、1番支えになつてゐるんです。それで、お母さんが1人になつたから、24時間つていふか、私が仕事に行つてゐる間以外は、今はずっと一緒にいて、それがずっと続くんだろうけど、これからどうすつべ…とか、なんかそういう…。私も一応、嫁に行つてゐるけど、旦那の実家も大島なので、別に暮らしてて目がないから、しょつちゅう会つてゐる。だから、そういう面でもすごく恵まれてゐるんですけど、お母さんは、これからどうやつてこの家を守つていって、仏壇がどうのとか言うから、そうなつてくると、私は、お兄ちゃんの方に後を継いでもらつてつて言つてゐるけど。

Int2：そういうことつて、お家では話されるんですか？お母さんと。

S：私とお母さんと2人で。

Int2：話はしてゐるんですね。

S：最終的にどうするのかわつていふのは、もちろん息子の気持ち次第だけでも、うちのお母さんからしてみると、お父さんが死ぬ前から息子のことをすごいかわいがつて、自分たちが育てたようなものだからつて、自分のものみたいなところがあつて、とにかく自分は息子に後を継いでもらつていふ、そういうプランが、もうできあがつてゐるんですよ。とにかくそういう点で先々が不安つていふ、常にずっとこういうの続くんだろうなつて。

Int2：その続くことも不安なわけですね。急にそういう状況になつたから。

S：どうなつていくんだろうつて。旦那の実家も、すぐ近くまで津波がきて、結局、船しか交通手段がないので、1カ月ぐらい孤立してゐたんですよ、大島。震災が来る前は、いずれは大島に行くつていふ

約束だったけど、そういうところを考えると、私も嫌だし、子どもたちがこれからそこに住所を移すとか、そういうのもすごく抵抗があるっていうか、今、悩んで。なんか悩みがすごいっばい。

Int2：それはその通りですよ。

S：ただ、旦那は割りと頭はやわらかいけど、旦那の実家からしてみれば、そこで生まれ育って、その生活が当たり前で、実際、船で行き来したりっていうのも、常に生活の一部だったから、抵抗はないんですよ。こういうふうに震災があっても、自分たちの生活も、今は落ち着いてきてるから、このまま、そこに居続けるとか、そんなに抵抗がないと思うんですよ。今度、津波が来たらこの家も駄目だべなって、さらっと言うんだけど、こっちからしてみたら、それはすごい大きなことで…。

Int2：それは、やっぱり生まれてからの生活文化っていうかを含めてなかなか…。

S：そこなんです。私、こっちにいたから、そのギャップがすごい大きくて。

Int2：お互い夫婦であっても、埋められないところは誰でもありますけどね。住んでる地域ごとで、浜の方であったり山の方であったりで、いろんなコミュニティがもともとあるところで、そこはなかなか埋められないものがあるって、非常に困ってるということもお聞きしたんですよ。だから、僕らが何かよかれと思ってやったとしても、私たちには分からないような、そういうこともあるんで、少し配慮してほしいっていうこともお聞きしました。Sさん、体調はどうですか？

S：最近風邪を引いたけど治りつつあります。

Int2：夜は寝れてますか？

S：夜は、何回も起きます。子どもも、いまだに何回か起きるので、それで起きると、私が今週の日に試験があるので。

Int2：何の試験ですか？

S：ケアマネの試験があるので、その勉強をしないと…。

Int2：そうですか。チャレンジですね、すごい。それは何かきっかけとか、あったんですか？

S：もともと高校を卒業してから、ずっと福祉の仕事をして、子どもの成長段階で何回か退職したり、職場を変えたりとかはしてたんですけど、なんとなく受けるかなみたい感じで2回ぐらい受けて、自分の気持ちも適当だったから、やっぱり落ちて…。今回3回目なんですけど、いろんな状況があるし、チビっ子も去年はちょっと預けられる状態じゃなかったからやめて、今年はちょっと頑張れるかなっていうので、気合を入れて。

Int2：少し前を向いてきたっていう感じですかね、自分の心の中で。そんな簡単なことじゃないけれども、お子さんも少し大きくなってきたから、少し気持ち的にもっていうことで。

S：わりとクヨクヨするんだけど、1回切り替わると、結構平気なんです。U病院に居たときも、結構、うちのお母さんのことでゴタゴタあって、すごい気持ちも不安定だったけど、こっちに来て、お母さんのそういう落ちてるところとか、結局1人になったから、認知っばいような精神的に微妙なところで、これは自分が母親を支えなきゃいけないってそのとき思ったから、そういう面でも資格を取らなくちゃいけないとか。

Int2：Sさん、頑張りすぎてないですか？

S：頑張り過ぎてます。分かってるんです。分かってるんだけど、私、もともとそういう性格なんですよ。何回か精神科に通ったりとかもあったんですけど、すごい頑張ってた自分が、ガタンって落ちるまで気を張ってしまうっていうか。

Int2：その精神科に行ったっていうのは、なんかこう急に元気がなくなっちゃったりっていうことが、

あったんですか？

S：その震災の前から、ちっちゃいときからの自分の成長過程で、本当にドラマみたいな、小説書けるぐらいのことがいっぱいあって、精神科の先生とかにも、先生が変わるたびに、Sさんで強いねって必ず言われるんですよ。ただ、強いんだけど、本当は強いわけじゃなくてみたいな、そういう風に気を張ってないっていうところがあるから。

【再度、インタビュー者交代】

Int1：下のお子さんは、保育所には、すんなり預けることができたんですか？

S：待機期間がなくなっていうことですかね。お兄ちゃんを預けてた保育所が震災で流されて、その先生が立ち上げた保育所に、私が仕事に行き始めてから。うちの父親が亡くなったんで、本当はお母さんの精神的なところで、簡単に言うと、何か役割を与えることでそれをこう…。

Int1：生きがいですかね。

S：生きがいになると思って。結局、私的にも時間の無駄じゃないけど余裕があるから、お母さん頼むから、私仕事するからっていうのでお母さんに頼んで、そうしてるうちに子どもも大きくなってきて、体が痛いとかやっぱり…。

Int1：動き回るようになってきますからね。

S：そう。やっぱりお母さんも疲れるし、ちょっと時間が長いようなときは、保育所に預けるからっていうので、一時保育を頼んでるうちに、あんまりポツンポツンって行くと、今度は子どもにとってストレスになるから、だったら、ばあちゃんとずっと一緒にいるよりは、例えば午前中だけでも別の子どもと交わることで、子どもも楽しいっていうか成長していくし、私も勉強になるし、お母さんもちょっとリフレッシュできる時間もあるしっていうので、頼もうって言ってたんですね。保育所も何軒か流されて、ちゃんと預けますっていうのができなくて、私はどうしてもお兄ちゃんが通ってた保育所に預けたかったから、取りあえずどここの保育所ができるまではいっぱいだけ、そこができれば何人かそっちに移るからそのときになって言われて、10月から行ってますけど。でも行ったら行ったで、今度風邪引いたのなんなのって言って。

Int1：熱出したりとかっていうことですね。今日は、保育所に行ってるんですか？

S：本当は、仕事がお休みの日は、保育所を休ませてほしいっていう、結構スキンシップを大事にしているって預けることになってるんですけど、テストが近いからお願いしますって言って、先生も頑張ってるって感じなので。

Int1：実母との関係、旦那さんのほうのご実家との関係、そして子育てと自分のこれからっていうところと、いろいろと挑戦しなければならんっていうところで、悩みはあるからっておっしゃってましたね。

S：多分、私は今、仕事に逃げてるんだと思うんです。逃げてるっていうか、そこにちょっと気持ちを向けることで、私も保っていられるっていうか。だから今、テスト頑張っべっていうので。

Int1：逃げてるという言葉でおっしゃったけれども、いい方向で転換して、ご自分の気持ちを向けていらっしゃるといふことですね。頑張りすぎてしまうことを、ご自分でも自覚なさってるみたいですけど、その辺の頑張りすぎてガタンとなっちゃいそうなところは大丈夫ですか。

S：紙一重。

Int1：試験もあと数日ですものね。それまでは頑張るとして。

S：そうですね。でも、取りあえず、今せっかく勉強してるんで、ついでにもう1つ受けようかと思っ

て。

Int1：何をですか。

S：認知症ケア専門士、認知症ケア管理士って言ったかな。12月に試験があるんですけど、ケアマネの合格発表が12月10日とかその辺りで、ちょうどそれまでの間、時間が空くので、せっかく今頑張ってるし、これがポッとなくなると、なんかポカンみたいになるから、もうちょっと、どうせだったらこの勢いによって、取れるか取れないかは別として、取り組むっていいんじゃないかなと思って。

Int1：なるほどね。それは、国家試験ではなく、自治体の資格ですかね。

S：だと思います。私もあんまり聞いたことがなくて、最近、ケアマネを受ける人たちのネットのサークルで、何の資格を持っているかという書き込みを見て、なんだこいつと思って調べたら、たまたま2、3日後ぐらいが応募締切だったから、「駄目だ、申し込む」って言って、勢いで。

Int1：そうなんですね。ぽっかり穴が空いちゃいそうというところを認識したうえで、そういうチャレンジを。そういったご本人の前向きなチャレンジに対して、ご主人とかお母さまとか、周りの方のサポートや理解という辺りは、いかがですか。

S：私の母親は分かってないんです。お母さんは自分のことしか考えられないっていうところもあるし、もともと性格的にそこまで気がまわらない。自分の感情のままというか、自分では多分コントロールしてるつもりなんだけど、やっぱり年を重ねていくにつれて、そういう個性っていうところが、結構強く出てくるんですよ。そういう面でうちの息子も、「何だよ、うるせえな、祖母ちゃん」みたいな。うちのお母さんは、分かってないから。逆に私がサポートしなくちゃいけないような関係で。私の旦那は分かってるけど。

Int1：気持ちを分かってくれてる。

S：そういう頑張りすぎるっていうところを分かかって、口では言ってるんだけどみたいな。ただ、仕事上、運転手なので、週末しか帰って来れないし、自分も仕事してて。旦那が、あんまり我慢強くない性格なの。我慢強くなって、いつも愚痴を言ってすっきりしてるんだろうけど、私は、いつもそれを聞かされるとイライラして、男のくせにみたいな。逆にあっちが女で、私が男、立場的に、性格的に。だから、分かてるけど、あちは口だけ。多分、私が本当にガタつてなればすごい心配するんでしょうけど、今は大丈夫だと思ってるから。でも口では、「おめえ、親のこととかでも、勉強とかでも、一生懸命やってるの、見て分かてるから」って、たまにポロっと言ってますけど。

Int1：それは、あまり男の人言わないものですけど、ご主人は、そういうふうにおっしゃる。

S：結構言うんですよ、気利いたこととか。

Int1：そういうことを言われると、ご主人に対して、どんな気持ちになるんですか？なんでかというところ、アンケートのご主人のところ、夫は妻をよく理解してくれているっていうところで、ややあてはまらないっていうところに丸があったのでね。

S：口では分かてるんですよ、頭では多分分かてるんですけど、分かってないと思う。表面的には分かてるけど、深いところまで、本当は分かってないと思います。

Int1：それは、ご結婚されてご夫婦で生活してる時からですか？別に、最近からっていうわけではなく、もともとですか？

S：もともと。

Int1：震災が起きたことによって、それは変化したりしましたか？

S：頼りになるか、ならないか？

Int1：だったり、あとはお子さんに対することだったりとか、お家の中でのお子さんに対する接し方だったりとか、例えばお子さんの面倒をよく見るようになったとか、何か特別変わったことっていうのは特になく、前と同じような感じですか？

S：前から常に気にかけてはくれるの。うるさいぐらい電話よこしたりとかして。多分寂しいのかな、暇なんだ、運転してるだけだから、口が暇なのかも分かんないけれど、でも運転してるからあれこれ考えたりもするだろうけど、自分は仕事してるから仕事のことで頭はいっぱいだろうし、運転してる、「なんだ、この車邪魔だな」とかってよく言ってるから。でもいろいろ考えてるときには、すごくよく考えてくれてると思うんですけど、でもそんなもんですよ。

Int1：実際、行動ってなると。

S：帰ってくるといろいろやってくれて、たまに進んでやってくれたりするんだけど、そうすると「おれっていい旦那だよな」みたいに。だから、それをやったことで自分は満足してるわけ。自分は「ああ、おれってすごい協力的なイクメンだ」みたいな。私とか子どもに対して、心配はしてるんだけど、何かするとかなんとかってなると、それをやったことで自分が満足してるっていう。本当に悪い言い方をすると、気持ちを持って、こうやってとかっていうのをやってるわけじゃないのかな。自分では、やってるんだろうけど、「おれっていい旦那だよな」って必ず言うから、私はそれを「ちょっとそいつは他の人が評価することであって、自分が言うことじゃないよね」みたいにたまに言うんです。「それを言うのは面倒くさいからやめない？」って言うんですよ。一生懸命やってるのは分かるけど、自分で自分をあまりにも高く評価しすぎると、周りでああ頑張ってるなって思っても、おれってすごい頑張ってるよなってなると、その差がなんかちょっとおかしいから言わないでって。

Int1：ご主人が、お仕事の関係で週末だけ帰っていらっしゃるのは、震災とは関係ないんですね。

S：関係ない。

Int1：震災の前から。じゃあ、震災によってご主人のお仕事の時間が延びたとか、生活が変わったっていうことではないんですね。

S：居なきゃ居ないで楽なんで、帰ってきたら逆に面倒くさいんですけど。

Int1：やるが増えますしね。Sさんが入院されてるときや、お子さんが34週でお生まれになっ  
ているので、NICUに入院しているとき、ご主人は気仙沼にいらっしゃったかと思うんですけど、そのときはどんなでしたか？震災後すぐ、Sさんは搬送されてしまって、全く気仙沼の状況とか、多分わからなかったと思うので、それに対して、入院中いろいろな思いがあったかとは思いますが、そのときのご主人っていかがでしたか？そのお子さんとかに対しても。

S：忙しくて、病院に来たのって1回だけでないべか。出産のときはタイミングよく来れましたけど、その前は確か1回しか来れなかったね。それは仕事上なんですけど、高速を何回も行ったり来たりしてるから、向こうは仕事で悪いけど行けないからって。でも、口では「次行きたいな、行きたいな」って言われるとこっちは期待するんですよ。でも、来ないから、そこでも結構イライラしてた。とにかく過酷な生活でしたね、精神的に。本当にいろいろなことがあって。

Int1：U病院にご入院中、上のお子さんは？

S：またややこしいんですけど、震災で父親が亡くなって、お母さんが普通じゃないっていうか。私の息子もじいちゃん、ばあちゃん子だけれども、どっちかっていったらじいちゃん子。天秤にかけるわけじゃないけど、じいちゃんが好きだったんですよ。じいちゃんも息子をすごい溺愛してたので、

そういうのをお互いを感じてる関係だったんですよね。口では「なんだ、じいちゃんうるせえな」とかじいちゃんには歯向かうんです。それでも、それを許してくれるから、私にはそうは言わないんだけど、すごくいい関係だったんでしょうね。孫としてもだし、友人関係っぽいようなすごくいい感じだった。でも、地震があつて、うちのお父さんが実家の様子を見に来て、たまたま一緒にいたお母さんと私の息子を見て安心して、職場で3時にどこどこ集合って集合がかかったから、もうすごく時間は経って、多分焦ってたと思われるんですね、そこに行かなくちゃいけないって。お父さんも自分がその仕事をしてるっていうことに対して、誇りを持って仕事をしてたので、お母さんと息子を見て、行ってくるからって言ったのが、最後だったんです。それをうちのお母さんも、もう少し引き留めてればっていう悔いがあるし、私の息子も、行ってくるからっていった人がその後…とか。息子も、津波の来る場面がテレビで映ると、いまだに居なくなるんですよ、見たくないって。それぐらい、いまだに精神的にトラウマっていうか持ってて、とにかくばあちゃんはおかしいし、じいちゃんは亡くなってるし、うちの息子はその間に挟まれてっていうか、ばあちゃんが「ばあちゃんここに一緒にいてね、ばあちゃん1人にしないでね」って言うから、もう泣けなくなってしまったんですよね。

Int1：自分がしっかりしないっていうね、お母さんも入院してますしね。

S：っていうのを、私は入院してて聞いてて、多分想像してる以上に息子は大変だったから、これではいけないと思って…。ちょうど学校も休みだったし、ちょっとお母さんとの距離を離さないと、逆に息子がつぶれてしまうと思ったから、息子を旦那の妹が仙台に居るんですけど、そこにちょっと泊まりに行かせて、私の友人が横浜に住んで、ずっと心配して「大丈夫か大丈夫か」って言ってくれたから、そこに2週間ぐらいかな、泊まりに行かせてたんですよ。だから、うちの息子はそこで現実逃避をできる期間があつて、学校が始まるからって戻ってくることになったんだけど。そういうので、U病院に入院中に、いろいろもめててっていうか、私も母親から「あんた、今までこんなに面倒見てきたのに、こんなときにお母さんのそばにいないで」とか「子どもなんかつくんなければ良かったのに」とか「火葬に参加できないなんて」とか「周りの人たちも親不孝だとか、私がこれからいい人生を送っていけねえんだからってみんな語ってる」とか、なんかすごかったんです。とにかく普通じゃなくて、冷静に考えれば、誰だってなるんだけど、多分あっちもいっぱいだし、こっちもしてあげたくてもしてあげられる状況じゃなくて、どうにもできない。息子のこともどうにもできないし、母親のこともどうにもできないし。私、切迫で入院するときに、お父さんに送ってもらったのが、最後だったんです。震災前の2月3日にお父さんに会ったのが最後だったから、入院してて火葬とか、もちろん葬儀とかにも行けなくて、そういう冷たい風っていうか、風当たりがすごいひどくて。お母さんのお姉さんっていうのが仙台に住んでいるんですけど、そのお姉さんのところにお母さんが身を寄せて、みんなで私のお見舞いに来るんです。お見舞いだと思って来るんだけど、言うことはすごい風当たりが強くて、なんか、母親からもいろいろ聞いているし、それで、もうどうにもなんなくて、U病院入院中は、来ても受け付けなくてくださいっていうことになってたんです。そういうので、息子はお母さんに預けられないから、結局、旦那の両親に家に来てもらって、2週間ぐらい見てもらったんですけど、向こうは大島だから、お母さんも仕事してたし、毎日通わなくちゃいけないって、一生懸命やってくれてるんだけど、うちの旦那の言い方も悪いから、そこでケンカになったりして。孫がかわいそうだからいいんだ、退院してくるまでだとか、そういう感覚じゃなくて「やってやってんのに」っていう気持ちだから、結局、言葉の端はしにいろいろ言われて、そうしてるうちに今度は、旦那の元の奥さんとの間に子どもがいるんですけど、その子どもが半年に1回ぐらいのペースで、泣きなが

らこっちに来たいっていうのが何回かあって。

Int1：電話寄越すんですか。

S：はい。その母親も寄越すんですよ、こんな子ども要らないから持ってけとか。

Int1：震災とかは関係なく連絡があったんですね。

S：入院中にまたその騒動があって、「要らねえから持ってけ」ってなって。私もそういうところで育ってるのは、かわいそうだから「もう、いい。あともう成人までっていうか 18 まで、あと何年しかないし、来たいって言うんだったら、いいから来て」って言ってたんです、私ずっと。その入院中のゴタゴタしてる間に、またそのゴタゴタがあって「いいから、いいから」って言って、入院中に、その子どもがうちに来て、そこで微妙な関係の生活が始まって…。まあ、子どもたちは仲がいいんですけど。

Int1：義理のご両親と。

S：なんかすごかったですね。私が退院してから、その引き取った子どもが一関市の定時制高校に通ってたんで、そこの気仙沼駅まで送り迎えしなくちゃいけない。だから、私は、子どもはちっちゃいけど、その時間に合わせて、夕方送ってって、帰り 10 時半ごろに、それこそやっと寝たのにみたいな子どもを抱っこして、へたするとギャンギャン泣いてるのを、おっぱいを飲ませながら、運転して迎えに行ってお飯食べさせて、また寝せてとか、そういう生活が今年の 2 月まで続いた。

Int1：そうすると正味何カ月ぐらい。

S：一緒に住んだのは、下の子どもが退院したのが 6 月 20 日だったので、6、7、8、9、10、11、12、1、2 って 8 カ月。

Int1：8 カ月そういう生活ですか。よくやりましたね。そうするとご自身のお仕事っていうのは、そのときはもう…。

S：子育てもだし、もういっぱいばいで、してなかった。その子っていうのが、なかなか問題児で、お勉強も掛け算とかもできなくて、要は塾も行けるレベルじゃないから、私が毎日家庭教師みたいに、掛け算、足し算、引き算とこから始まって、学校の勉強のやり方とか、英語とか数学とかそういうのを教えて。でも、その子どもが手癖が悪くて、あれって思ったら、うちの息子のお金を盗ってたりとか、ウソ言ったりとか、とにかく自分の都合のいいようにいいようにダラダラダラって暮らしてきたから、最初は多分緊張してたんだけど、だんだん地が出てきて、結局は、うちに居られなくなって。私の息子ともすごい仲がよかったんだけど、うちの息子は、他人のお金を盗ったりとか、そういうのを一切受け入れられなくて「あんな人と一緒に暮らすなんて考えられない」とかすごくて、これはちょっとねってなって。なんか猶予期間のようなものは作ったんですけど、「もう居られないよ」「悪いけども、居させてあげたいけど、何回言っても、結局こういう結果になるから居られないよ」って。なんか本当のお母さんとも、会ったりとかして交流があったみたいで、お母さんも戻ってこいって言ってるとか都合がいいんです。最初、ワーンって言うんだけど、結局ほとぼりが覚めると離さないとか。だから、そんなだったらいつもの家族げんか、親子げんかがちょっと大きくなったのに巻き込まれたんだなっていうことにして、「うちであったことは言わなくていいから、おれ、なんか帰ってえから帰るかな」って、そういうふうに言ってみたらって帰えしたんだけど、今度、帰ったら帰ったで、私にいじめられたとかなんか。結局、あっちにはいいことを言って、こっちにもいい顔をしてっていう感じで。

Int1：今は、帰ってるんですよ。入院中にゴタゴタしたことになったって冒頭におっしゃったから、

こういうことだったんですね、いろんなことがね。実の子でない方を預かることになったりとか、息子さんを親戚とかのところに身を寄せさせたりとか、そういったことの判断っていうのは、ご主人と相談して2人で決めるんですか？

S：2人で。2人でっていうか、決定権は私なんですけど、一応話し合っ

Int1：ご主人とね、それで決めるような感じ。

S：これでは、息子がかawaiiそうだって。私もそういう話の状況をいろいろ聞いて、お母さんの性格上とか、周りでだいたい想像して。息子もかawaiiかawaiiで育ってるから、そんなに気が強なくて、本当にお坊ちゃんお坊ちゃんていいいいってみんなに言われ、私もみんなも本当にそんな感じで。この震災を機に、だいぶ男らしくっていうか、かawaiiそうなところもあるけど、結構しっかりしてんだって思ったりね。それまでは本当にお坊ちゃまだったから。

Int1：その震災のときに、実のお母さんからいろいろ言われたりして、上のお兄ちゃんに、いろんな思いをさせたっていうようなお気持ちがあったと思うんですけど、その後1年ちょっと経ちましたが、上のお子さんに関して心配なことっていうのは、今は特別ないですか？

S：将来のことは、もちろん親だから心配だけど、震災があつてとか、じいちゃんが亡くなってとか、そういう面では今は心配してないかな。かえって逆に息子さんの方が、じいちゃんが亡くなったから、将来は消防士になって人の役に立ちたいなんて、気持ちに…。

Int1：おじいちゃんが消防士さんですか？

S：電気関係の会社に勤めてたんですけど、要はその震災のときに、自衛隊の人とか消防士の人とかが活動してて、そういうのを目の当たりにして、消防士になって人の力になりたいとか。なんか卒業式のお手紙で、じいちゃん分まで笑って過ごせるようにとか何だかとか言って、ああこんなに強くなったんだなって…。

Int1：今年の3月に中学校を卒業して、そのときのやつに、そう書いてあったんですね。

S：やっぱり1番は、チビっ子ちゃんが生まれて、家に帰ってきたっていうのが、息子にとってはすごい癒されたっていうかなんて言うんだらうかね、自分の兄弟ができたって。お腹に赤ちゃんできたよって言ったときも、すごい喜んでたんですよ。微妙な年だから、どうやったらいいのかなと思って、でも割りと素直に育って、本当に幼稚っぽいような感じだったから「お兄ちゃんもね、こうやってなったんだよ、ああやってなったんだよ」なんてアルバムを引っ張り出して見せたりとか、ビデオ見せたりとか、動いたときも「ほら、お兄ちゃんもこうだったんだよ」とかって言いながらやってたから、生まれてきたときに、もうかわいくてかわいくて、今も溺愛なんですけど、「ああ、かawaiiね、かawaiiね、お兄ちゃんにそっくり」って、私が必ず最後に言うんです。そうすると「本当に自分にそっくりだ」って、本当にそっくりなんです。ただ性格は違うんですけど。性格はお兄ちゃんの方がんびりっていうかまったりだったんだけど、下はヤンチャっていうか、すごい生き生きして子どもっぽい感じで。「だからお兄ちゃんときは、こういう性格ではなかったけども」なんて言ったりとか「お兄ちゃんもね、こうだったんだよ」って言いながら。

Int1：いいお兄ちゃんですね。

【一旦、中絶】

Int1：いろいろなことがあってU病院でご出産なさって、それでお家に帰ってきたら、お兄ちゃんがすごく喜んで、そういうお話をさっき伺わせいただきましたけれど、出産後戻られたのはもともと住